

「はむらの授業指針」子どもの視点④

誰もが参加できる

動物学者の河合雅雄氏によれば、チンパンジーは思いのほか学ぶことが好きで、あるレベルの学習をさせるともっとやりたい、とせがむそうです。

さて、この場合の学習の難易度は、どの程度であったと思いますか。

私は、河合氏の論文を読み進めながら、次のような予測を立てました。チンパンジーにとって比較的優しく、手軽にできる学習材を与えれば、もっとやりたいとせがむに違いない、と。

残念ながら、私の予測は外れました。

チンパンジーが最も高い意欲を示したのは、彼らの能力のレベルよりもやや難しい問題を与えたときでした。ある程度我慢して頑張れば、自力で成し遂げられる学習です。

なお、自分の能力よりもかなり高いレベルの学習を強いられたチンパンジーは、学習室の中をいきなり走り回ったり、こぶしで壁を叩いたりするなど、乱暴な行動に出ます。反面、易しい問題を続けて出されると、飽きてしまって自分の体の毛づくろいをしたり、ほかの物をいじったりして遊び始めたとのこと。

もちろん、子どもとチンパンジーを同様に捉えることはできません。しかしながら、日々の授業において、学習内容を理解できずにイライラする子ども、問題が簡単過ぎて学ぶ意欲がわからない子どもがいるのも、また事実です。

私たち指導者は、当該教科の学習が苦手な子ども、得意な子どもの立場に立ち、それぞれに応じた指導の手立てを講じることが重要です。



人に話しかけるように書く

文筆家、クリエイティブディレクター。「暮らしの手帖」編集長、「くらしのきほん」編集長歴任。株式会社おいしい健康取締役 松浦弥太郎
文章を書くコツは、「上手」という言葉を忘れること。名文でなくてもいいし、難しい言葉もいりません。親切に、思いやりを込めて、人に話しかけるように、分かりやすさを第一に。「これくらい知っているだろう」は禁物です。目の前にいる人に話しかけるように、文章の先にいる人に話しかけるように、文章の先にいる誰かを思い浮かべて書きましょう。

出典：「しごとのきほん くらしのきほん 100」(マガジンハウス)

※ 話しかけるように書くことと、読み聞かせるように確認すること、この二つをセットにしたいと考えています。